

2018-03-01

活動者会議あいさつ

フォーラム平和・人権・環境 共同代表 福山真劫

I、はじめに

連日の平和フォーラム運動への結集に心から感謝します。安倍の暴走のなかで、平和フォーラムの果たさなければならない役割は、拡大し続けています。皆さんと一緒に求められている役割を果たし続けたいと思います。

何点か提起させていただきます。

II、平和フォーラムの運動と基本的枠組みにおける課題

わたしたちの安倍打倒戦略の基本構想は、大衆運動の高揚と連帯する野党との共闘で安倍政権を包囲することです。そのため、基本組織である平和フォーラムの強化と闘いの枠組みの拡大・強化が必須です。

1)平和フォーラムの課題は、①構成組織の組合員数・会員数の減少に伴う運動基盤の不安定化の克服、②運動の拡大とともに、従来の基本運動の前進を含めて、戦線が伸びきっており、再構築が求められていることです。それは、闘いのなかで克服することが、原則ですが、平和フォーラム組織の点検、取り組み課題の明確化が求められています。今年は平和フォーラムの基本的在り方の検討が必要となっており、議論を深めます。

2)闘いの枠組み拡大・強化の課題です。現状では、全国で共闘の形は、濃淡がありますが、1000人委員会、総がかり・安倍9条改憲NO！と運動枠組みが拡大し、運動は前進していますが、全国で、より中身のある一步前に進めた共闘をめざします。

私たちは、市民、中立系団体、共産党系団体へ共闘を拡大することにより、運動はかつてないほど大きく高揚させてきました。しかし結果として、まだ安倍政治を終わらせることはできていません。また「連合」との関係が希薄になってきたこと含めて課題も見えてきました。

総がかり行動実行委員会の組織体制の強化と総がかりを超える総がかり運動の構築が課題となっています。

アベノミクス政策の結果、非正規労働者層の拡大、生活困難・貧困層の拡大、セイフティネットの不備による高齢者、障害者、低所得層の生活の深刻化など矛盾が拡大しています。そうした権利を侵害され続けている層との連帯、青年、学生等との連帯強化、連合との連携強化も求められています。

また原発課題は、「さようなら原発1000万市民アクション」に結集して取り組みます。

3)政治闘争は、戦争法廃案運動に取り組む過程で、大衆運動での闘いだけでなく、従来と「違う形」・共産党を含む形で野党共闘を作り上げながら、政治闘争へ踏み出し、またこの延長線上で、市民連合に結集して、2016年参議院選挙、2017年衆議院選挙の選挙闘争へ参加してきました。とりわけ昨年の衆議院選挙闘争では、平和フォーラムは、選挙闘争は、各構成組織の判断にゆだねるとしてきた従来の立場を超えて、立憲民主党を基軸に社民党も支援して取り組み、立憲野党

の勝利をめざして、市民連合を強化する中で闘いました。混乱した状態の中から、自公に引き続き3分の2の議席数を許したとはいえ、野党共闘を作り出し、確実に次への展望を作り出すことができました。

政治闘争の分野では、衆・参で3分の2の議席を確保している安倍政治と対決し、勝利への展望を作り出すためには、総がかり運動の延長線上の野党共闘しかありません。引き続き全力で野党共闘で、政治闘争を闘います。当面は、立憲民主党、社民党、自由党、共産党、民進党と連携を強化します。それぞれの政党の主体性の強化を前提にしながら、次期参議院選挙、衆議院選挙では、従来不十分であった野党共闘を総括し、本格的野党共闘をめざします。

Ⅲ、私たちの目標は、貧困・格差を深刻化させ、戦争する国・軍事大国へ暴走する安倍政権の政策転換・打倒し、平和・民主主義・憲法実現・脱原発の社会をめざすことです。

世界は米国の一局支配の崩壊、BRICS の台頭・とりわけ中国の台頭、米国トランプ政権の混乱、中東の危機の深刻化、東アジアでの軍事的緊張、深刻な人コント格差の進行と政治・経済・軍事・社会の全般にわたる矛盾と危機を深めています。私たちは、平和・核軍縮・人間の安全保障をめざす政界のNGO諸団体と連携をした取り組みを強化します。

そして当面の国内の闘争課題は、①憲法9条改悪反対の取組み、②森友・加計・レイプもみ消し・スパコン・リニアなど安倍政権の権力の私物化と長期政権のなかで生じている腐敗・劣化を糾弾する取組み、③働かせ方改悪である労働関連法案改悪反対の取組み、④沖縄米軍新基地建設強行反対、米軍基地縮小・撤去、日米地位協定改正など沖縄の取組み、⑤東北アジアでの非核・平和の確立の取組み、⑥原発ゼロ法案成立と脱原発社会への取組み等です。

Ⅳ、憲法9条改悪阻止の取組み

1)安倍首相は、憲法の空洞化を進めたうえで、自民党の従来の改憲案「9条2項を削除し、国防軍の創設」を修正し、「5・3の9条改憲」(9条1項項を残し、自衛隊を明記)提案しました。自民党は3月25日の大会までに「改憲案」をまとめるとしています。公明党や維新、その他の野党を巻き込み、「日本会議」、「美しい日本の憲法をつくる国会議員」と連携して、9条の条文改正に本格的に動き出しました。

2)この提案は、9条に込められた侵略の歴史への反省を無視したものです。アジア・太平洋戦争では、日本の戦争犠牲者は約300万人、日本の侵略による犠牲者は2000万人を超えるといわれています。広島原爆慰霊碑には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませんから」と書かれています。アジア各国に不信と不安が拡大しています。

またこの提案の本質は、①戦争法(集団的自衛権行使を合憲化)を追認し、9条1項・2項の死文化させ、空洞化の総仕上げをする。②自衛隊の多様な分野での膨張、他の制度へ波及(土地収用法など)する。③武力によらない平和から武力による平和へと基本路線を変える。そして、戦争する国・軍事大国化へと日本を導くことです。こうした憲法9条の改悪など、到底許されるものではありません。戦後最大の憲法・平和・民主主義の危機です。連帯の輪を大きく拡大し、阻止しなければなりません。そのことが今を生きる私たちの責任と義務です。

3)改悪阻止に向けての、わたしたちの戦略の基本は、原則護憲派から、専守防衛派、安倍の

改憲反対派まで幅広く、結集し、「安倍9条改憲NO」で、多数派を形成し、改憲発議を阻止することです。またそのための戦術は、①草の根のから運動を組み立てること、②3000万請願署名運動に取り組むこと、③当面5・3に全国で大集会を開催し、東京では10万人集会とすること、④SNSの発信体制を強化すること等です。とりわけ3000万署名は、九条の会も巻き込みながら、全国で大きく拡大しようとしています。個別訪問しなければ集まりません。職場、家族、友人・知人、街頭署名から戸別訪問に取り組みましょう。

IV、沖縄辺野古基地建設阻止・沖縄と連帯しての取り組み

2月4日の名護市長選挙の結果は、稲嶺、16931票、渡具知武豊・20389票であり、稲嶺氏が敗北しました。今回の選挙における相手候補は、争点から徹底的に基地隠しをしました。世論調査でも、1・30の琉球・沖タイ・共同では、辺野古への移転、反対・どちらかと言えば反対が、66%、賛成・28・3%、基地建設を進める政府の姿勢を支持しない・どちらかと言えば支持しないが、67・2%です。また2・04の前述3者の投票日・出口調査でも、反対・どちらかと言えば反対が64・6%でした。沖縄の名護市民は、辺野古新基地建設を容認したわけではありません。引き続き連日新基地反対の取り組みはめげずに戦われています。辺野古新基地建設反対の帰趨は、沖縄現地の闘いと本土における闘いが決めます。本土の闘いの弱さが指摘され続けてきました。私たちのまなじりを決した連帯の闘い求められています。①まず名護市長戦で敗北したのも事実を踏まえ、敗北を総括し、秋の県知事選挙めざして、再出発をすること、②辺野古基地建設闘争参加と支援、そのため現地闘争への参加、平和行進、5・26国会包囲行動等に取り組むこと、③公正な裁判を求める緊急署名は10万を超えて集まっています。山城さん他の公判闘争支援に取り組むことです。

V、東アジアに非核平和の確立の取り組み

安倍政権は、自らも手を貸している「東アジアでの軍事的緊張」の中で、2018年予算案にも見られますが軍事大国化をめざしています。朝鮮半島で非核・平和体制を確立するためには、軍事的脅迫、制裁ではなく、対話・協議・交流以外の道はありません。「北朝鮮の核兵器開発・保有」を許されませんが、制裁と軍事的脅迫では、解決されません。南北、米朝、日朝対話の推進、中国・ロシアなど関係国間の対話の中からはしか解決の糸口は見えません。とりわけ日本の責任の重大性、日朝平壤宣言を踏まえて、その役割を果たす必要があります。また中国とは、今年の日中平和友好条約締結40周年です。声明・条約の基本を踏まえて、東アジアで軍事的緊張を高めず、平和への交流を深めましょう。

VI、脱原発社会の確立の取り組み

世界の潮流は脱原発へと加速を強めています。日本でも脱原発への動きが高揚しようとしています。しかし安倍政権は、原発再稼働、原発輸出、核燃サイクル路線の推進、福島切り捨て路線を突き進んでいます。今こそ脱原発の取り組みの強化が求められています。現在立憲民主党を中心に野党共闘で、「原発ゼロ法案」が提出されようとしています。基本法制定運動、核燃サイクル路線からの撤退、全国での脱原発闘争との連帯、福島支援尾取り組みの強化が求められています。3・21の集会を成功させるとともに、「さようなら原発」を中心に野党との連携を一層強化し、

具体課題での前進をめざします。

Ⅶ、おわりに

平和フォーラムはこのほかにも多くの課題を担っています。

平和フォーラム、総がかり、野党共闘で闘えば安倍に勝てると確信を持ちましょう。私たちの未来を闘いの中から作り出しましょう。